

キャラクター名
相川 里奈

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	FHEージェントA	カヴァー	FHEージェント
	パロール					
オプション			年齢	16	性別	女
覚醒	死	衝動	飢餓	初期侵食率	32	%
出自	疎まれた子	経験	永劫の別れ	邂逅	欲：居場所	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	3		0			3	行動値	6
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	6
精神	2		0			2	戦闘移動	11
社会	2		0			2	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志		-5	調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：FH	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲：	0	合計回避：	0
情報		ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
強化兵	P	N			
未熟な神の卵	P	N			
路地裏で合ったエージェント	P	好意	N	恐怖	
昔優しくしてくれた男子	P	純愛	N	悔悟	
---純一郎	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	6	残り財産P:	3		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
フルパワーアタック	5	4	セット	至近	自身	自動	80↑	
効果： 攻撃力+Lv*5 行動値0								
永劫の獣	3	12	セット	至近	自身	自動	120↑	
効果： 素手攻撃力+Lv*10 ラウンド間、《完全獣化》が解除されない								
完全獣化	5	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 【肉体】判定ダイス+Lv+2個								
ハンティングスタイル	4	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 戦闘移動 離脱可								
破壊の爪	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 素手変更 攻撃力+Lv+8 G値+1								
究極獣化	5	4D	マイナー	至近	自身	自動	120↑	
効果： 獣化中、攻撃力+LvD 装甲+10								
C：パロール	4	2	メジャー	-	-	シンドロ	-	
効果： CL値-Lv（下限7）								
漆黒の拳	3	3	メジャー	武器	-	白兵	-	
効果： 装甲無視、攻撃力+Lv								
漆黒の波濤	3	3	メジャー	武器	範囲(選)	白兵	-	
効果： 素手攻撃の対象を範囲(選択)に変更 攻撃力+Lv								
神獣撃	5	2	メジャー	武器	単体	白兵	80↑	
効果： 攻撃力+Lv+2D 完全獣化解除								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

一人称：私
二人称：キミ
好き：昔優しくしてくれたたった一人の男子 / 一人でいること
嫌い・苦手：人の多い場所 / 隠している左目を見られること

-出自
生まれた時から左右の目の色が違っており、親族からとても不気味がられ疎まれながら育った。そんな親族たちの眼を気にし始め、次第に眼帯を左目に付けるようになる。学校や家庭において蔑視され続ける内に居心地が悪くなっていった。同級生からは陰湿ないじめ、教師からは無視、親や兄弟からは暴力、暴言。まともな食事にありつける日は無かった。家庭ではわざと悪質なものを食べさせ、学校の給食は常に同級生に妨害された。それでも一人、たった一人だけ優しく接してくれる男子が居たが、そのことが周囲にバレるとその男子もいじめの対象となり、気が弱かったその男子は知りあってから一か月経たない内に自殺したことが分かった。

-経験～邂逅
そのような日々を送っていた所、人通りの少ない路地裏でFHのエージェントがジャームの処分をしている所を目撃してしまう。エージェントは「見られたら仕方ない」と里奈の腹部に攻撃を叩き込み、里奈を死亡させる。左目を覆っていた眼帯が外れ落ち、自分の身体を見ると赤い液体が噴出してきている。里奈は思うのだった。「なんで？こんなワケ分からないヤツに、いきなり？私何も悪くないのに。これまで一つも良いこと無くて？こんな眼帯なんかして、いつも一人で暗い道を歩いて、それで理不尽に殺されて？誰も悲しまず終わる、なんて……」今までの理不尽な人生とその終わり方に、里奈は納得できなかった。というより納得したくなかった。里奈はオーヴァードに覚醒し、それを目撃した目の前のエージェントはどこか嬉しそうな表情を浮かべていた。防衛の意思からか、思わずエージェントに飛び掛かった所で記憶が途切れる。